

平成30年度 第2回 教科用図書南那珂採択地区協議会 議事録概要

会場：南郷ハートフルセンター 文化会館 会議室

日時：平成30年7月13日 午後3時～午後5時15分

発言者	内 容
部 長	【特別の教科 道徳の研究調査報告】
委 員	【質疑応答】
委 員	Q 本地区の実態を踏まえながら、生徒の道徳性をはぐくむためには、どのような教科書が適しているかを考えながら、私自身も今回の教科書を研究してきた。どの教科書においても、生徒の道徳的価値をより深めるため工夫が凝らされている。学習効果を高めるための特設のコーナーやページについて、発行者ごとの特徴があるか。
部 長	A どの教科書においても特設のコーナーやページを取り入れ、多様な考えに触れさせ、多面的・多角的な見方や考え方を促すための工夫がされている。体験や役割演技をとおして学んだことや考えたことを交流したり、書く機会や話し合いを通して考えを広げたり、自分の過去を振り返る時間を設けたりするなど、道徳的価値を高めることができるよう工夫されている。
委 員	Q 道徳のノートが別冊で付いているものと、教科書に直接記入する欄を設けているものがある。それぞれの活用におけるメリット、デメリットについては、どのように考えているか。
部 長	A 別冊のノートについては、発問の視点が示されており、どの指導者が授業を進めても、一定水準の授業の質が確保できると思われる。一方、指導者の裁量で取り扱うことのできる教科書は、生徒や地域の実態に沿って、生徒に別の視点で考えさせたい授業をする際などに、記載されているものにとらわれずに発問を考えられる。考え、議論する道徳の授業の視点から、書くことや記録を残すことは、大切であり、どの教科書においても書く活動を重視している。
委 員	Q イラストや漫画などを取り入れた教材が多く見られた。生徒にとって興味や分かりやすさの視点において効果があると思われるが、道徳的価値を深めるという視点ではどうか。
部 長	A それぞれの教科書において挿絵や漫画、イラスト、絵画等を使用し、工夫が凝らされている。生徒が親しめるようなもの、また、簡単には答えが出ず、考えを深めながら授業が進んでいくような構成になっている。それぞれの教材を理解し、指導者が、ねらいをしっかりとって、道徳的な価値を深める指導をすることが必要である。

- 委員 Q 発問の視点が多く示されている教科書と、中心発問だけに絞って記載されている教科書があったが、研究の中でどのように議論されたか。
- 部長 A 教科書によって発問の数に違いはあるが、どの教科書においても、中心発問がしっかりと記載されている。詳細に発問が載せられている教科書は、どの指導者が授業を行っても、一定水準の授業の質が確保されることができると思われる。また、中心発問だけに絞って記載されている教科書は、地域や生徒の実態に沿った授業を展開することができ、指導例にとらわれず、指導者の願いや意図を大事にした発問を考えることができる。
- 委員 Q 道徳の評価について、どのように行えばよいのか。
- 部長 A どの教科書においても、学んだことを記録するページやコーナーが設定されており、一人一人の心の変化や成長を読み取ることができるようになっている。1時間ごと、学期ごとや1年間の振り返りを行ったり、自分の行動や気持ちの変化を確かめたり、また、これからの自分についても考えたりできるよう工夫されている。
- 委員 Q 道徳の授業が指導者によって指導のばらつきがあったことも指摘され、教科化に伴い、指導が一定の水準に保たれることが望まれる。主題やめあてが導入の部分で明示するものがよいのか、指導者に任せの方がよいのか、道徳性を培う工夫はどうあればよいのか、議論されたか。
- 部長 A 議論になった。主題を明示する教科書は、指導者が指導しやすい、生徒がねらいをつかみやすいという利点がある。あえて明示していない教科書は、価値との出会いを大切に、道徳的価値の押しつけにならないようにという配慮がある。どの教科書を使用しても、授業の流れの中で生徒に自発的な問題意識をつかませるため、教材研究は大切である。
- 委員 Q 教科書のサイズに特徴があるが、使う立場に立ったときの利便性についてどうか。
- 部長 A 会社によってサイズが違うのが特徴的である。サイズが大きいものは、文字が見やすいし、小さいものは持ち運びが便利である。それぞれのよさがある。
- 委員 Q 今回の教科書では、家庭教育と連携を図るよう工夫されているが、保護者との関わりを意識した道徳教育についてどのように考えているか。
- 部長 A 学校、地域、家庭が一体となって、子どもの変容、成長を見ていくことが大切だと考える。そのような観点からも、家庭で話題として取り上げることができるようなコラムや一年間の振り返りスペースを設定し、保護者にも発信するなど、家庭教育との連携を図れるように工夫がなされている。

【協議】

- 会 長 ○ これから協議を行う。各委員の考えをお願いします。
- 委 員 ○ 選定をしていくためには、ある程度、絞っていった方がよいと考える。別冊のノートがあるもの、ないものがあるが、使いやすいのはどちらか。
- 委 員 ○ 調査報告でもあったが、それぞれ利点がある。別冊のノートの利点は、評価という意味で残すことができ、便利であるということ。教科書に直接書き込むことの利点は、教材文と一緒に残すことができ振り返りに便利であるということがある。
- ほかに、別冊のノートの利点として、ノートに沿った発問を行うことで、どの教室でも同じ水準の授業が確保されるということもある。また、直接書き込むことの利点として、補助発問等を実態に沿って考えることができるということもある。
- 会 長 ○ （調査報告及び別冊のノートを確認する時間をとる）別冊のノートについて意見はないか。
- 委 員 ○ 別冊のノートがあると、多様な活動が制限されてしまうことが懸念される。書く活動が精選されている授業の方が、道徳的価値を深化していく上ではよいのではないかと思う。書かせることで、学習意欲を損なうことがないように授業を行う必要がある。
- 委 員 ○ 書いたことを残すのであれば、自分自身でその内容を振り返り、自身の成長を感じられるような記録があればよいのではないか。別冊のノートはなくてもよいのではないかと考える。
- 委 員 ○ 本地区の生徒の実態から、生徒一人一人が、まず、しっかり考え、他者の意見を聞き、議論し深める道徳の授業であるために、生徒にとって、別冊のノートがあるよりも「書く」活動が精選されている方が適していると考え。あわせて、生徒の実態や指導者の願い、想いを踏まえて、多様な活動を展開しながら、生徒が道徳的価値を深化していくことが大切であると考え。
- 会 長 ○ ほかに、別冊のノートに関する意見はないか。別冊のノートはなくても構わないか。なければ、昨年度も協議で、挿絵がもつ雰囲気や使いやすさが協議の話題となったが、今回も漫画や新聞といった視覚に訴える工夫が調査報告の中にもあった。そのあたりはどうか。
- 委 員 ○ どの教科書も特徴があってよい。ただ、題材のねらいに合った挿絵かどうかは、見ていく必要がある。挿絵を含め、教科書のもつ雰囲気は、生徒にとっての使いやすさにつながると思う。部長の説明にもあったが、甲乙付けがたいのは確かである。
- 会 長 ○ 題材のねらいという表現があったが、題材の冒頭にねらいを示している教科書、示

していない教科書があるが、これについてはどう考えるか。

委員 ○ ねらいとする道徳的価値をはじめに示してしまうと、価値の押しつけになってしまうのではないかと考える。

委員 ○ 確かに、道徳的価値の押しつけはいけない。しかしそれは、授業者の授業の構成次第ではないか。道徳的実践につなげるためにも、何について考えるのかといった各教科でいえば目標的なもの、方向性的なものはあってもよいのではないか。生徒の意識付けを図るという意味で、題材の冒頭にねらいを示していてもよいと考える。

委員 ○ 各教科の指導に例えるなら、1単位時間の最後にまとめがあるが、道徳の終末の在り方も大切になるのではないかと考える。

会長 ○ 終末の在り方についてはどうか。

委員 ○ これまでと大きく変わることはないと思うが、展開後段では道徳的価値の一般化を図り、終末には、道徳的価値の実践化を図ることができればよいと思う。

委員 ○ 展開後段や、終末に力を入れている教科書は多いと思う。例えば、光村図書であれば「学びのテーマ」、学校図書であれば「学びに向かうために」といった欄が準備され、毎時間書き込みもできるようになっている。

会長 ○ 研究資料や研究報告さらにこれまでの議論を踏まえ、丁寧に見ていくと、教科書の特徴がよく見えてくる。(しばらく各自で確認する時間をとる)ほかに特徴的な部分はないか。

委員 ○ 生徒が手に取った時、開いてみた時の第一印象は大きいと思う。挿絵や写真、図を効果的に使っている教科書は印象がよい。

委員 ○ 学びたくなるような意欲をもたせるような教科書がよい。

委員 ○ 多面的・多角的に考えさせる授業とあるが、教材文はもちろん、生徒を引きつける資料等も大切だと考える。

委員 ○ 開いてみた時の印象で言えば、目次の部分も違いが大きい。四つの視点が分かりやすいようにまとめているもの、ポイントを示しているもの、年間のユニットに分けて配置しているものなどがある。

1単位時間の授業について考えてきたが、道徳的価値を高めるためには、年間を通して計画的に学習を進めていく必要がある。改めて目次を見たが、指導者にとっても生徒にとっても目次から年間の指導がイメージできるかも大切な視点であると考え。

- |    |  |
|----|--|
| 委員 | ○ 目次に関連して、光村の場合、1年間が四つのまとまりから構成され、それぞれに「学びのテーマ」があり、1単位時間ごとの学びのつながりが見える構成になっており、1年間をとおして道徳の時間での学習内容や意図が、指導者にとって取り扱いやすく、生徒にとって分かりやすい教科書という印象を受ける。      |
| 委員 | ○ 見通しがもてるというのは、教えやすさ、学びやすさにつながる部分であると思う。教材と教材の関連や区切りが明確なものが指導しやすいのではないか。その視点から見ると私も光村が使用しやすいのではないかと考える。  |
| 委員 | ○ 目次や見通しの視点ではないが、私も光村がよいと考えている。それは、読み物資料の後に、「学びのテーマ」などの5つの要素で構成されているページがあり、指導者にとって学習指導過程を構成しやすく、生徒にとって学びやすい教科書のように考えたからである。                          |
| 委員 | ○ 私も光村が活用しやすいと考える。読み物資料の後に「私の気づき」や巻末に「学びの記録」があり、生徒が教科書に直接書き込むことができ、生徒自身の振り返りが可能である。また、その記録の蓄積が、指導者にとって長期的に生徒の成長を見取ったり、評価の材料として活用したりしやすい教科書ではないかと考える。 |
| 委員 | ○ どの教科書も本当にすばらしかったが、光村は、巻末の「学びの広場」を有効に活用することが可能になっており、特に、小学生の時に会った可能性が高い教材が補充教材として各学年に収録されており、生徒が学び直しの視点を踏まえて、より実感を伴った深い学びにつながりやすい教科書のように考える。        |
| 会長 | ○ ほかの意見はないか。協議はここまでとする。挙手をもって採決を行う。<br>(挙手で確認。委員全員が「光村」に挙手。)<br>○ 全会一致をもって、本協議会では「光村」を選定することとする。   |